

「小学校での情報教育の実践と評価研究プロジェクト」

1. 関西代表による実践発表（各 10 分）

- ① 亀岡市立東別院小学校 広瀬一弥教諭による「理科・電磁石（5年生）」：
理科の教科の特性である条件制御や、課題を見つけるためのアプローチと情報活用能力の関連についての発表。
- ② 和歌山大学教育学部附属小学校 中岡正年教諭による「国語・アップとルーズで伝えよう（4年生）」：
説明文を読み解き、実際に条件に即した映像を制作する中で教科の目標達成と情報活用能力の育成を目指す取り組みについての発表。
- ③ 発表資料：和歌山市立雑賀小学校 川口奈穂教諭による社会科実践：
主体的に問題解決に取り組み、自らの考えを表現・発信する子どもを育てる社会科（※別紙資料参照）

2. その他の実践について

- ① 「D 児童の情報活用能力の評価」のカテゴリに関する取り組み
「ネットによる情報検索の評価を意識した取組み」：社会科の調べ活動における、「情報検索」の評価の取り組みについて
・ どういったキーワードを入れ（知りたい情報にたどり着くためにキーワードを工夫しているか、適切なワードを入力しているか）、検索結果からなぜそのサイトの情報を選んだのか、また出典を書きとらせることで、そのサイトが誰が何のために発信しているものかを意識させる取り組み。結果的には、今までに考えたこともなかったという場合が最も多く、「信頼できるサイトかどうか」という視点での意識はほとんど持っていない。
- ② 「A ICT を子どもが活用した演習型実践」
※映像制作系実践の取り組み
事例 1：5 枚の写真＋ナレーション等の基本的な情報だけで作品を構成する。
事例 2：撮影活動も取り入れ、場面構成・キャッチコピー等も創作する。
※映像制作における習得・活用の段階を分けた取り組み
（上段：習得段階の実践）「撮影ごっこ遊び」に陥らないように、映像制作の「きほん」を学ぶ場面。基本操作・工夫、表現手法、映像制作に必要な情報等について学ぶ。
（下段：活用段階の実践）映像作品作成の必然性を設定、テーマ・条件を指定してそれに対応した映像制作を行う場面。
・ タイトル・キャッチコピー、クレジット、写真・映像などの情報の配置
・ 視認性、構成、ナレーションと映像のマッチング
など、評価の観点を定め、自己評価・相互評価⇒改善⇒何をどういった理由でどのように改善したのか記録を残す。
- ③ 情報活用能力育成のための「習得系実践」
（45 分で完結するショート実践）例）ポスターづくり、新聞づくり等の場合
・ 「作成速度」や「分量」→授業行程が同じ実践を 2 回おこない、1 回目と 2 回目でその「作成速度」や「分量」での評価を実施。操作スキルが向上するのは当然として、それがどの程度のレベルアップにつながったのか、そして記述内容の質的な向上を問う
- ④ その他「情報」の基礎を学ぶ＋情報モラル系実践について

3. プロジェクト当初の目標達成の検証

関西班として掲げた当初の目標は以下の3点である。

- (1) ICTを活用することによる学習効果・必然性を明確にする(他の手段ではなく、ICTのこの機器・ソフトウェア等の必然性を示す。児童らにも同様に学習手段として諸々のメディアを使用するメリットを意識させ、他の手段との相違点やICTならではの効果を理解させる。これによって、児童がメディア利用の提案者になることを促す。
- (2) 各授業実践は、若手教員や情報教育に不慣れな教員への普及を目指し、目的の明確化と育成したい力量やその到達レベルを示したい。
- (3) 授業前の時点での情報活用能力の把握と授業によって獲得・経験・向上できた情報活用能力の客観的抽出を行う。(チェックリスト方式やルーブリック方式が有力)

上記(1)に関しては、ICT活用のメリットを活かした実践がなされ、習得・活用系の事例を数多くおこなう中で、児童らに操作スキル及び活用能力を向上させ、以後、m主体的な判断のもとで児童らの提案によってICTを活用する場面が出てきたため、一定の成果を挙げたといえる。